

株式会社孫の手



事業者概要

2001年に設立された介護・福祉サービスを提供する企業。訪問看護やデイサービス、障害福祉サービスなどを運営し、「かゆい所に手が届く」きめ細やかなケアを提供。豊富な医療職と確かな技術力を活かし、単なる介護にとどまらず、誰もが自由に表現し、心が通い合う社会の実現を目指している。現在、社会課題である「生きづらさ」に焦点を当てた展覧会を企画し、新たな価値創造に挑戦している。

プロジェクト参加背景

介護の枠を超えた社会課題へのアプローチ

孫の手は、介護サービスを超えて「人の心」に寄り添い、生きづらさを抱える人々の支援を拡充したい思いから、孫の手は利用者の個性を尊重する価値観の発信方法に課題を抱えていた。

デザイン経営を通じて自社らしさを明確にし、その考えを社会に広める手法を探るため、本プロジェクトへ参加した。

本プロジェクトで取り組んだこと

デザイン経営の実践から見出した展覧会企画

本プロジェクトでは、デザイン経営を通じて「人の心に寄り添い、個性を尊重する姿勢」といった孫の手らしさを明確化。その価値観を社内で共有することでコミュニケーションが活性化し、文化醸成が進んだ。複数回の打合せを重ねた結果、孫の手の想いや考え方を社会に発信する手段として、展覧会開催という具体的なアクションを企画するに至った。



成果・手応え

社内外での共感の広がり和社会的な意義の発信

本事業を通じて「人の心に寄り添う姿勢」や「ありのままを受け入れる価値観」といった孫の手らしさが明確化され、社内では文化醸成が進み、社員の誇りややりがいを高める契機となった。

また、「障がいや生きづらさを抱える人々が個性として尊重されにくい社会」という課題に対し、展覧会の企画を通じて共感と対話の場を生み出す新たなアプローチを見出すことができた。

今後の展望

介護の枠を超えた価値創造とグローバル展開

今後は、展覧会を開催し、「心」をテーマに社会との関わりを深める。2025年以降は、介護の枠を超えた多様な人々との協働を強化し、新たな価値を創造するプロジェクトへと発展。さらに、日本国内にとどまらず、世界へ向けて展覧会を展開し、文化としての「ノーマライゼーション」を広めることを目標とする。協力者を募り、社会全体が「ありのまま」を尊重できる環境づくりを推進する。

05

展覧会

概要 コンプレックス、障がい、人間関係様々な生きづらさがある現代でひととその心に焦点を当てたシリーズ展

ほめほめ展

ちっぽけなことでも人の見えないところでコツコツとみんなにかやしているはず。そんなエピソードを、老若男女、職業、性別問わずどんな人でも参加できる。そのエピソードを共感しあい、認め合う。「あ、こんなことできるんだ!」「こういう人ってそう考えてたんだ」そんな風に小さな発見が自分の普段を褒めてあげられるんだと思います。そうやって認め合うことがノーマライゼーションを生むはず。

某副社長
俺、車いすだけど、レーシングカー乗れるんだぜ

桐生市92歳
私はほめほめだけじゃ小学生がいつも歩く道のゴミはひろってる

THE 看護師A
この前耳ほってあげたら病気が治るより喜んでた

